

「企業と地域、そして商工会の トライアングル作戦」

地元を離れて学生生活を送った私は、平成13年4月にUターンし当時の大野村商工会へ就職した。そして気づいた……「なんて美しい星空なんだろう！」。

程なくして、「商店街の在り方」について考える機会があり、「地元の良さ」を新発見した私は、ワクワクした気持ちで意見を述べた……「日本一きれいな星空商店街を！」。私が願う、そして思い描く地域の姿に向けた「夢と希望のベクトル」は、この時が出発点だったと思う。

「小規模企業振興基本法」の施行

全国約381万者ある中小企業者のうち約9割を占めるのが小規模事業者である。この小規模事業者は、地域の経済や雇用を支える

極めて重要な存在であり、その活力を最大限に発揮することが地域にとっては必要不可欠である。しかしながら、人口減少、高齢化、海外との競争激化、といった構造変化に直面しており、喫緊の課題が山積している。その中でも「経営を持続させる」ことが事業者にとっても地域にとっても最重要課題であると捉えている。

大企業と中小企業の格差是正を目的に昭和38年に制定された「中小企業基本法」に次いで、地域における小規模事業者の重要性を踏まえ、その持続的発展を目的に平成26年6月から施行されている「小規模企業振興基本法」は、これまで「中小企業」と一括りだった定義が細分化され、地域の中心的な盛り立て役であり、私たち商工会が支援する小規模事業者に寄り添った内容となっており、光が差し込む大きな出来事であった。

「自社の強み」を活用した 「経営革新計画」

中小企業等経営強化法に基づく「経営革新計画」では、「企業が新たな取組みを行うことにより、『付加価値額』『経常利益』の増加を図る」ための経営目標を盛り込み、3年から5年の事業計画を策定する。経営革新の取り組みに限らず、企業は「過去・現在・未来」を考慮した上で、ビジョンを見出している。商工会においても、この経営革新計画の策定を推奨し、その支援を行うこととしている。

そんななか、平成27年に、洋野町の地域課題である「買い物弱者対策」へ取り組むスーパーマーケットと出会い、私自身、初めての経営革新計画策定支援を行う機会ができた。初めに取り組んだことは、現状の把握からである。



洋野町商工会
(洋野町)
主任
沼田 加奈子



「お買い物宅配便」で
お客様へお届け



果物から日用品まで商品がびっしり
詰まった「お店箱」

予想もしない回答…… 「買い物物を諦める」

まずは、買い物弱者対策を進めるスーパーマーケットの店長等とアンケート調査を実施した。多くの方が協力的に、にこやかに受け答えしてくれ、楽しい時間であった。しかし、一人の女性と出会い、買い物弱者という言葉に隠された「孤独」を目の当たりにした。

私の「重いと思う商品は何ですか？」の質問に対し、「牛乳1本と醤油1本を持ち帰るのが大変」と答えられた。

続けて私が「歩いて買い物に来ているんですね？雨が降った日、体調が悪い日の買い物はどうしていますか？」の問いには、「……、諦める」と。

一瞬、私は心のなかで「買い物物を諦める？

食べることを諦める？」と理解に戸惑い、不安に駆られた。この予想もしない回答に、体が震えたことを今でも覚えている。

そして、答えていただいた女性が「買い物物を諦めない販売方法を考えなければいけない」とその場で強く思った。

「誰に売るか」ではなく 「どうやって売るか」

スーパーマーケットへ買い物に来てもらう概念を捨て、「小売りの原点」をもう一度見直した上で、店舗が顧客へ歩み寄っていく新事業の計画を検討し始めた。体調や天候が悪く、外に出ることが出来ない場合でも、また、災害等でライフラインが途絶えた場合でも、「ひとりでは無い」と感じられる新たな販売方法に試行錯誤の末辿り着いた。

原点回帰から誕生。

欲しい物を自宅に置けるサービス「お店箱」

買い物弱者対策として、買い物配達サービスと連動した「お店箱」を考案した。このお店箱は、欲しくなるであろう商品を見定め透明な箱に入れ、自宅に届けるサービスである。富山の置き薬やグリコのお菓子ボックスの販売スタイルである。この「お店箱」には、常温で置くことが出来る食料品の他に、日用雑貨や仏壇用の線香なども入れ、高齢者に寄り添った品揃えとしている。また、ロウソクや電池等を入れることで、「普段使い」と災害で使用できる「非常用」の両面を持たせているのが特徴である。

「一番望むサービスは……」「会話」

高齢者がアンケート調査で一番期待するサービスとして挙げていたのは「会話」であった。買い物と同時に会話を楽しむことが出来るのは、対面販売の魅力である。

同様に、顧客の声に耳を傾ける「原点」を忘れてはいけない。それが「地域」と、「地域を支える企業」と、「商工会」の最大の役割だと感じている。

業務推進にあたって私は、このトライアングルを大切にしていきたい。地元に戻ったときに思い描いた「夢と希望のベクトル」とともに。